

のびる 松っ子2

～自分から、自分で～



令和6年8月9日
大村市立松原小学校
学校だより No.9
文責：校長 永富伸介

県民祈りの日（8月9日）

今日、8月9日は79回目の「県民祈りの日」となりました。6月に行った土曜授業では松原の救護列車を伝える会の皆さんによる朗読劇やアニメーション「わすれられないきみへ」の上映等、この松原の町も原子爆弾の惨禍の歴史と深く結びついていることを多くの方とともに学ぶことができました。



子どもたちから寄せられた感想の多くに被爆し、頭に木の棒が刺さったままの女の子が登場する場面や必死の思いで探し当てた母親と救護所で死に別れてしまった女の子の場面が書かれていました。どちらも大切な人と別れる悲しさ、原子爆弾や戦争により起こる理不尽さを子どもたちなりに捉えていたのだと思います。

そして、子どもたちは、この当たり前のように過ぎていく毎日こそが幸せであり、平和だから成り立っているのだと考え、こうした日々を大切にしていきたいと考えています。

平和集会で、広島市の平和記念式典で小学生が朗読する「平和への誓い」のことを子どもたちに紹介しました。このような一節（令和5年「平和の誓い」より）があります。

- みなさんにとって「平和」とは何ですか。争いや戦争がないこと。差別をせず、違いを認め合うこと。悪口を言ったり、けんかをしたりせず、みんなが笑顔になれること。身近なところにもたくさんの平和があります。
- 私たちにもできることがあります。自分の思いを伝える前に相手の気持ちを考えること。友達の良いところを見つけること。みんなの笑顔のために自分の力を使うこと。
- 身近にある平和をつないでいくために、一人一人が行動していきます。

こうした戦争や原子爆弾の悲惨な歴史を二度と繰り返さないためにも、まずは身近な平和を大切にしていこうという思いは我々、大人も同じでありたいものですね。

今日は、各御家庭で平和について見て聴いて、考え、そして語り合う、そんな1日にしていただけると幸いです。

”社会を明るくする運動” 長崎県弁論大会

県内各地では、7月から8月上旬にかけて「社会を明るくする運動」中学・高校生弁論大会が開催されています。中高生が日常生活の中で体験し感じたことを自分の言葉で伝えてくれます。少し難しいかもしれませんが、自分自身を振り返るよい機会になるかもしれませんね。よかったらのぞいてみられませんか？

◇日 時 令和6年8月12日（月） 12:00～16:00（予定）

◇会 場 シーハットおおむら さくらホール